

アメリカ研究調査旅行記

石川 行弘

2005年9月18日(日)。SFOに朝9時頃に到着。気温13℃にびっくり。昼前にはサクラメントに到着。SFO近くの山の緑は少ないが、それを越えると畑が目立つ。ほとんどは収穫した後か、あまり栽培していないためか、よく分からないが、緑の畑と黄金色の畑と茶色の畑が混在している。ところどころにクリークがある。空港を出ると太陽がキラキラに照り、肌が暑く感じるものの、日陰は少しひんやりとさわやかで過ごしやすい。SFOとは、かなりの気候の違いを見せる。ホテルまでの途上、黄色の畑はヒマワリで、あとはほとんど収穫したか休閑地のよう。ホテルの直ぐ横を古い蒸気機関車に古い客車を連結した観光用の列車が汽笛を鳴らして近づいて来た。その直ぐ脇の橋は、下を観光船が通るとき、リフトアップしていた。Old Sacramentoは、19世紀半ば頃の建物を基調としており、ゴールドラッシュ時に初めて鉄道が敷設された場所らしい。横を流れるサクラメント川を外輪船が通り、運搬に使われた当時の様子を示すレリーフが、川沿いの散策道に飾られていた。歴史的な場所に指定され、年間500万人の観光客があるとか。

昼食はメキシコ料理。ここは南部とあまり関係ないのではと思うが、SFOはスペイン語の町が多いので、ここにもメキシカンが多くいたのであろう。もっとも、カリフォルニアはもともとメキシコの領土であり、アメリカが騙してくすねたようなものだから。ポリスが2人入って来て、食事。ブーツも長いものでcool。外に出ると馬が2頭つないであり、食事を終わったポリスが颯爽と乗馬したので写真を1枚パチリ。駐車違反の取締りで巡回していた。歩道は大抵、木柵の上になっているが、木柵の横は、赤、黄、青に塗ってある。赤帯のあるところは駐車禁止というわけ。

いろいろな小さな博物館もある。当時の幌馬車、金を量った天秤、南北戦争時代の火砲や弾などなど。ここで一番目を引いたのは、キャンディー。この小さいタウンにたくさんの店があり、ありとあらゆる色と形のものが陳列されており、多くが樽の中に入れていた。あまりに鮮やか過ぎる色で見るのは楽しいが、買う気にはならない。

2005年9月19日(月)。11時から1時半までミーティングし、カリフォルニア州政府の食糧農業省を訪問。エレベーターの横にシュワちゃんの写真があったが、そういえばそうだ。彼は州知事なんだと納得。かなり若作りの顔なのは古い写真を持ち出したか??するとこのオフィス街のどこかに住んでいるのであろう。家畜、特に乳製品の生産量は全米の23%位で、粉末ミルクの生産量は46%にもなるという。排泄物はラグーンをうまく管理し、発酵させた後に肥料に戻したりして環境に配慮している様子。断っておくが、この当たりから英語でのやり取りが良くわからず、内容は100%信頼おけないのが残念!!

学校給食のことで、S氏からDeputy Secretaryと、栄養士か何かの実務担当の女性2人を紹

介され、懇談。学生（生徒）に供給するシステムは、かなり前から基本的に変わっていないようで、カロリーになるグループ、タンパク質グループ、野菜・果物グループを主体に考えているよう。栄養素の基準はあっても、日本のように定食システムでないため、アンバランスの摂取をすることが多いような気がする。一般のアメリカ人は、如何にして食べる量を減らすかが最大のポイントと言ったら、納得していたので、家庭での食事のコントロールやジャンクフードに対する教育を必要とする。日本では「食育」が盛んに言われたしたが、伝統的食事摂取とコメの消費拡大が基本になるのかなと感じた次第。

州内には 1000 校区があり、10 校に 1 人くらいの栄養士を配置している？ 給食代の中、80 セントは連邦、20 セントは州の補助が出ているのかな？ 小学校では close（一定のものを提供）にして、全員が同じカテゴリーの中から好きなものを選択するようにしているらしいが、中学校になると close と open（弁当など持参）が入り混じり、高校では open のよう。今までは構内に自動販売機を置いて、学生がコーラやジュースなどを自由に飲んでいたが、最近では禁止の方向にある（自動販売機を設置すると、いくばくかのお金が学校に支払われるため、学校側としてもメリットがあると考えたようだが、最近では清涼飲料等の negative 面が浸透してきて設置を控えているようだ）。保護者の考えの底流には、close では家庭が貧しいと見透かされるとの思いがあるようで、無理して open にさせている家庭もあるという。朝食を摂らないで来る学生のために、10 時頃？にはスナックやサラダバーを設けているところがあるとか？ 朝食摂取の習慣と肥満の関係は如何に？？ 昼日中に親がバーガーショップに子どもを連れてきて、大きな袋を提げて帰っているのを見たが、その子の肥満さ加減は尋常ではない。親の教育と子どもの食習慣、肥満に関するアメリカ人の意識改革は必要で、なぜ食べ過ぎることが美德なのかと思ったりする。

帰りは歩く。近くにはカリフォルニア州の議事堂があり、どの州でもそうだが、きれいで威厳がある。この町にはバスもあるが、5 両くらい連結した電車が走っていて、市民や通勤者の足になっている模様。途中、Wells Fargo History Museum に立ち寄る。ゴールドラッシュ時に金などを運搬して大きくなった会社が Wells Fargo で、ロビーが Museum であり、幌馬車、天秤、馬具、金が入っている石などなどが展示してあった。幌馬車の屋根に中国人が乗っている絵があったが、ゴールドラッシュの頃、鉄道敷設のために中国人が多く移民してきたらしい。その中国人にコメが必要となり、最初は他国（や他の州から？）から輸入していたらしいが、カリフォルニア州でもコメができるとのことがカリフォルニア米栽培の出発点らしい。

喉が乾いたので、隣接した café に入ったのが運の尽き。せいぜいワインをいっぱいと思っていたが、パンが出されたので、皿にオリーブオイルとビネガーを入れたものに付けて食べたとき、お代わりするくらいまかった。夕食はどこか他のところで食べようかなと思いつつ話が盛り上がっていたのに、きれいに化粧したうら若きウェイトレスの盛んなアタックに根負けしてパスタを食べる羽目になった。メニューはイタリア語で大きく書いてあり、その下に小さい字が英語で書いてあった。食べたのはシーフードパスタでエビ、ホタテ、ムール

貝，キノコなどが入っており，麺は薄めの幅広で，いつものパスタとは異なり，コメ麺の感じであった。たっぷりのトマトソースがニンニクとコショウで味付けされたもの。3人で約\$100とは高い！！川辺の星空の下での夕食が化けた。

2005年9月20日(火)。有機栽培米を生産している Lundberg Family Farms を訪問。サクラメントの北へ約80マイル，車で約1時間20分かかる。サクラメントの町を外れると，直にコメ農場が見える。少し北では果樹があるが，何なのか?? アプリコット，ピーチなどを道端で売っていたので，そのようなものが取れるのであろう。途中できちんと整備された高い土手（土塁）があった。地図によると貯水池のようである。アメリカ農業，特に水田で育てるコメ生産は，鳥などの棲み処にもなり，環境にやさしい農業と受けとめられている。この当たりの貯水池は小さいが，もっと奥のシエラネバダ山脈に近いところには大きな湖水があって，そこから水が供給されているらしい。

あちこちでトマトを収穫したトラックが走っていた。農場の中のカーブにはたくさんのトマトが散らばっており，遠心力で落ちたのだろう。収穫後の畑には多くのトマトが散乱しており，中にはいいものもあるが，多くは青いもので，畑全体からは腐った独特のにおいがしていた。隣の畑はコメがたわわに実っている。道路を走っていると，地下水のくみ上げポンプが見られ，田に仕組まれた散水施設（外からは見えない）で水を供給しているのだそうだ。そのほかに見かけた作物は，ヒマワリ，コーン，メロンなど。

Lundberg Family Farms の近くには，州の農業試験場もあり，まわりはほとんどコメであった。かなりの範囲で倒伏したものもあるが，背丈が日本のコメに比べて著しく低いため，あまり気にならない。この農場は50年以上も有機栽培米を栽培している。通常のコメは直播のため，全面に稲が育っているが，有機米は除草作業のために，縦にキチンと並べて種を播くそうだ。ただ，育った稲と稲の間の除草は大変らしい。コスト的には通常米の2倍くらいか。日本にも輸出しており，酒，酢，味噌などの加工に用いている会社があるとのことで，日本の有機米を使うことを考えればずいぶん安いと思われる。

2004年度産のコメを5種類，分析，試験用にもらう。また，玄米チップやそのほかの製品も資料としてもらった。Lundberg さんはとても気さくな人で，年齢は40前後？かなり太ってはいる。先祖からの有機栽培にこだわっているが，これだけ大量に栽培できる面積は日本にはないであろうから，日本で有機栽培もののみを珍重し，安全性神話（神教）に取り付かれ，他の低農薬米などの排除にかかると，カリフォルニア米に太刀打ちできないことは明白だ！！1区画が兎に角大きい。100~200m x 300~500m はあるのか？大きなエアコン付き（さらにはGPSも付いているのかな？）機械で収穫作業し，集めた玄米をトラックに移して運搬していた。また，他の場所では噴場整備をしているのか，もうもうと砂煙を立てて土壌を移動している光景が見受けられた。今年産米の収穫も始まり，忙しい時間を割いてくれた Lundberg さんに感謝。

夕食は，S氏夫妻とともに日本レストラン（とろ）で会食。同道したNさん（K先生のア

メリカママなのだそうだ) も一緒。80歳だそうで、車を運転してデービスからサクラメントまで約30分かけてこられた由。最後に乗る車は、これということでLEXUSであった。今、日本でトヨタが最高級車として売り出し、ベンツやBMWに対抗できる車としているもの。それまではリンカーンだったとか。その車に乗せてもらってレストランに。レストランで楽しんだ日本酒、1つはナパの酒と書いてあったが、オレゴン産のよう。1つは日本産。後ろの席には月桂冠の社員が食事していた。刺身とすしを食べたが、ネタはあまりよくないというのが印象。

2005年9月21日(水)。朝は5時起き。7時の飛行機でワシントンDCへの移動。

2005年9月22日(木)。午前は、アメリカ農務省USDAのEconomic Research Service(ERS)を訪問。農務省自体はモールの近くにあるが、この研究所はモールより少し西側のビジネス街のビルにある。Securityが大変で、名前を書いた後、IDを提出確認の後、荷物と人はX線を通らなければならない。ようやく訪問者のラベルを受け取り、I先生が連絡していたH氏が迎えに来て、IDでドアを開け、ようやく研究所内に入る。最初は、日本農業政策の専門家のD氏に挨拶。多くの人とセミナーを持つ。アメリカはコメの生産量が堅実に伸びているが、未だマイナーな穀物である。生産には熱心であるが消費の方は、小麦やコーンに比較して少ないため、今ひとつ関心が低い(Farmで見かけたコメ製品がアメリカ人にも受け容れられるようになれば健康的なスナックになるのに)。世界中からデータを集めて分析し、その結果をwebで公開している。昼食は、反対側のビルの地下にあるカフェテリアで摂ったが、かなり多くの種類の食材が準備されており、好きなものをもって、重量計算する方式。日本人の経営？

午後は、USDAのCenter for Nutrition Policy & Promotionを訪問。この部署はポトマック川を渡り、右にペンタゴンを見ながらInterstateを10分程度行ったところのビルにあった。ボスのN氏を訪問するが、ここのsecurityは何もなく、たまたま廊下で出会った女性に話しかけると、オフィスの中に案内してくれた。秘密の度合いと安全性が、所在地でこうも違うのか？ボスの執務室で栄養政策専門家H氏(女性)のほか、女性2人と懇談。

この部署は、アメリカの栄養摂取とそれに見合った食品の選択に関してガイドラインを製作しているところで、いわゆる食事ピラミッドを作っている。全粒穀物や新鮮な果物(ジュースで果汁割合の低いものや、いわゆる清涼飲料で糖類の多いものが喜ばれている現状に対して)のことを盛んに言っていたし、年齢階層別に見合ったカロリー摂取量毎に必要な食事摂取の望ましい量を書いた表も作成したりしていた。日本でも作業量に応じた摂取カロリーは換算しているので、特に日本に参考となるものではないように思う。食事の過剰摂取が問題であることの認識ははっきりしており、その中でいい食材を摂取させる教育の一環として、学校給食などで教育したり、給食のメニューを選択性(アラカルテ)から、日本のように栄養バランスを考えた定食(ターブルドレーテ)に持っていくことも検討しているようである。

ボスの実感では、家で子どもが選ぶ食品を見て、悪いと思う方を選んでいくという。

ボスが最後に一言。こちらが望ましいと考えている食品選択の順序は、食品の価値、栄養、価格なのに、実際には味（嗜好）、価格、栄養だそうである。日本での有機野菜の選択とまったく同じようなもので、消費者はかっこつけて、安全性（葉っぱが虫に食われていて見えてくれが悪くても）を一番に言うが、実際の購買順位は、見えてくれ（外観）、価格、安全性！！

2005年9月23日(金)。10時にUS Rice Federationを訪問。ここもバージニア州アーリントンのビルにある。C氏に迎えてもらう。協会からは、会長のP氏、副会長のC氏、消費者教育や食事提供関連の専門家としてR氏（女性）と販売や貿易専門家のJ氏（女性）が出席。最初に記念写真を撮りましょうとのことで並ぶ。官庁や研究所とは雰囲気が違う！

I先生とP氏が双方の概略説明を行った後、2人の専門家が協会の活動内容について詳細な説明を行った。USDAとタイアップした活動が目立つが、コメの加工製品開発の指導的役割を果たしているように思われた。資料も多く準備され、3時間にも及ぶディスカッションにも付き合ってくれて、かなりの歓待の印象。昼は会議室に準備されていた軽食を食べながら、話し合いを続けた。政府機関や研究機関でないため、やはり溶け込み方とか一味異なり、at homeであった。

午後は、International Food Policy Research InstituteのB氏を訪問。現在はHarvest Plus研究分野のボス。この研究機関のsecurityはかなりのもの。研究者が入っている部屋やボックスが並んでいる廊下に入るのに、鉄の扉が殺風景で閉まると独特の音がする。入るときは研究者等が持っている四角い印鑑のような棒（キー）を差し込む必要があり、出るときは自由でも閉まれば、再度入れない。トイレに入るにも同じようにキーが必要で、いちいち付いて来てもらわなければならない。B氏はきちんとした個室に陣取っていた。K先生が知っているというT氏を訪問。農水省の農業経済センター？から派遣されてきているとかで、今1年半くらいになり、後1年半くらいいるとのこと。数ヶ月に1度は東南アジアの方に調査に出かけるのだそうで、最近ではポスドクを使って調査などをやらせているとか。

夕食は総勢5人で「たこ蛸」という日本食レストランに行く。刺身はサクラメントより美味しかった。すしには、ドラゴン（アボガドとウナギかアナゴを巻いたもの）とかダイナマイト（鉄火巻き？の上にピンクの辛いソースが乗せてあるもの）とか言うものがあった。イカやタコの刺身は、完全に火を通したもので刺身にあらず。カキも食べたが、東海岸の小さい、殻のやたらと硬いもので、酢醤油がかけてあった。刺身醤油はヤマサでProduct of USAとあった。

B氏をMETROの駅（DCの中心から離れた駅で、夜一人でというのは怖い感じがした。）まで送り、モーターに帰りチェックイン。明日は、モールで大規模なデモがある予定。

2005年9月24日(土)。朝はゆっくりとコンチネンタルを摂ってミーティング。S氏と会うのは午後4時の約束のこともあり、ペンタゴンシティーで時間をつぶす。スーツケースのファ

スナーが壊れたので、新しいものを購入。専門店のもので、やや高かったが、Macysにあるフィリピンや中国製のものに比較して、頑丈そうだし、まあいいかと言う気持ち。I先生とK先生は同じキャリーバッグを購入し、日本で早くお揃いでデビューをしたいのだそう。これはスイス軍が使うようなもので機能的且つ頑丈そうで、デザインも申し分ない。その代わり高い。

昼食はペンタゴンシティー内で中華料理を食べる。後は、アイスクリームを少し。K先生は大のアイスクリーム党。

4時の予定が7時に延びたが、約束場所のジョージタウンに向かう。ここは古きよきアメリカの雰囲気を醸す建物が保存されている町並みで、優雅な風情と高級感あふれるいい街であった。デモの後のためか、土曜日の夜のためか知らないが、車の通りも多いが、人であふれかえっていた。散歩で時間稼ぎ。近くに有機産物を売るスーパーがあったので入ってみる。試食用のチーズを食べたが、カマンベールのようにおいしかった。その横にキャビアの缶詰があったので1つ購入。いろいろなすしをパックに入れて売っているコーナーもあった。日本のコメもあった。

待ち人が現れたのは午後8時。S氏は気さくな人で、レストランの中でワインを飲みながら、まずはアカデミックな話を1時間あまりして過ごす。その後、ようやく料理の注文。Turkey料理店らしいが、その日のスープとスパゲティを注文。ラム肉を入れたものであるが、味がほとんどないくらいに薄く、タバスコをもってきてもらう。家まで車で1時間かかるかどうかであるが、ワインを十分に飲んでいたので、Saturday Nightはこんなもんだと、特別にOKといていた。I先生も強そうだし、運転にあまり影響がないよう。K先生は、直ぐに顔が赤くなり眠ってしまう。

S氏はIP6（フィチン酸）の有名な研究者。IP6は米糠中の制ガン物質として注目されているもの。脳内に多い物質で、神経系の酵素活性に強く関わっているため、重要なのだそう。“You are my friends”ということになり、氏の奢りとなる。駐車場に行くと、係りのお兄ちゃんが、日本人かと聞いてきたので、そうだとすると、我々のいたレストランの裏隣のレストラン（日本語の店名も書いてあるので、日本人が経営しているらしい）に“日本の駐米大使”がここで食事していると教えてくれた。間口は2間程度の小さいレストランであるが、馴染みなのだろう。車で道路に出るとき、例の車体の長いリンカーンが停まった。出てきた人物はラフな格好で、あまり上等な顔でないので、ギャング当たりかも知れない。午後11時過ぎというのに、車と人は溢れかえったままであった。レストランの雰囲気もいいので、週末などは多くの方がリラックスに来る街なのであろう。

2005年9月25日(日)。朝7時、K先生をダレス空港まで送る。日曜日の朝のため、モール付近の車が少なく快適。連邦議事堂前からの芝生の広場には昨日の演説会場の設備がそのまま、トイレやテントの片付けもこれから。キャンプ用のテントもかなりあるので、広場で泊まった人もいるのだろう。こんなに早くから子どもたちがスポーツを楽しんでいる。

この日は部屋で勉強。ゆっくりした日を期待。昼食はモーターにある中華料理にする。コメのスープとホタテの野菜炒めのようなもの。ブロッコリーが安いのか、やけに多い。この中に water-chest nut が入っていた。タイに調査に行ったときに、とある農家で生で食べた nut で、煮てある感じでやや嫌味があった（スライスしてテンプラにして食べると、レンコンみたいで美味しい）。Long のコメが付いていたが、美味しくない。

午後7時に、かつてI先生が世話になったという日本人の方の家を訪問。ビールで乾杯し、肴はN氏が作られた牛肉の味付け焼きのようなもの。メインディッシュはTボーンステーキになるのか、家の外でバーベキューしていただく。Nさんご夫妻とT氏、I先生と小生の分で10枚。これで1500円程度だとのこと。かなりの大きさなのだが主食だからということで2枚平らげた。後は野菜（セロリ、ニンジン、黄色と赤のピーマンで全て生をドレッシングでいただく）と果物（スイカとマンゴ?）、最後にデザートが出る。小さい1口サイズのシュークリームでチョコレートがトッピングしてあった。N氏の奥さんはアメリカ人。小生の出身はどこで聞かれたので広島と答えると、5月には広島に夫妻で旅行されたとか。N氏は国務省で通訳などしていたとか。ベトナム戦争当時は、兵士に日本語を教えていたようで、落第するとベトナムに送られるため、皆々一生懸命勉強したそうだ。現在は会社経営しておられる。

ひょんなことから話が飛んで、ガーナの話になった。5年位前からガーナに行き、農業やエネルギー問題について、いろいろ調査研究しておられるようで、例えば、ガーナはスイスから粉ミルクを輸入して外貨を使っているのはナンセンスだという話になった。自分の国には世界に冠たる真水の大きな湖があり、十分な水の供給ができるので、コメや大豆などの農作物を増やし、ダイズを摂取するようにするのが望ましいのではと話しておられた。当人も大金を投資して、大きな土地の99年間の借地権を持っているという。本格的な具体的な目標を掲げておられた。エネルギーの方にも注目しており、今は出世したエネルギー大臣と懇意なのだそうだ。子どもはどうしておられるとの話で、息子は今、ガーナで仕事をしていると言うと、11月か12月頃ガーナに行く予定だから、息子さんに会いたい、若いエネルギーを期待しているという話になった（実際に、息子は現地でお会いした。）。今、PH.Dの論文作成中とのことだが、70歳くらいで頑張っておられる。今日は、思わぬところでいい日であった。

こちらに来て、腕の一部に虫にかまれたようなところがあったので、搔いたところが変になった。なんとなく、いつもは口にできるのぼせのよう。英語で話し合っている内容を理解しようと、集中したのでストレスがたまって、こうなったのだろうが、口でなかったのが幸いといえば幸い。サクラメントでの最初の懇談の後には、脳神経の電気回路がバチバチとショートしてしまったのか、眠れなかったし、体はとにかく緊張で疲れを感じないので、変なところでしっぺ返しを食らうことになる。

2005年9月26日(月)。午前、International Food Policy Research Institute を訪問するが、資料室で読書。その後、食事に行く。日本人らしき人が経営しているサンドイッチ屋に入り、ツ

ナのを注文。ツナの量が半端でないのがアメリカ的で、日本ではこんなには、もったいなくて入れてくれないだろう。午後は、International Food Information Council を訪問。受付のドアがロックされていた。廊下に rest があるもののキーがないと入れない security 管理である。食品企業大手 40 社くらいがスポンサーになっているようで、食品に関する情報収集と提供を行っている機関。日本での〇〇食品工業会に相当するのだろうが、対象は全ての食品という規模が異なるのかもしれない。職員は 35 名程度とのことで、栄養士も専門家としているよう。

会議の後は、I 先生と 2 人で break。しこたまシンポジウムや調査の成果等についてディスカッションした後、最後の夜ということで、モーテルの食堂で食事。ワインボトル 1 本を楽しむ。夕刻より、珍しく雨になったが、食事が終わった 9 時半頃には止んでいた。タクシーでダレス空港付近のモーテルに行く。午後 10 時過ぎにホテルに付いた直後、2 人の青年とバッタリ。彼らの T シャツのロゴを見ると Purdue University とあり、その学生（息子が卒業した。）であった。まったくの機縁というべきか。

2005 年 9 月 27 日(火)。朝、シカゴオヘアに。空港内で godiva3 個購入。Duty-free でもこんなに高いのか！！

ロビーでばったり K 先生ご夫妻に会う。かつて小生が留学していた大学（研究室）からの帰りだそうで、まったく予期していない人に会うものだ。同じ便で関空へ。

立花隆氏の「人間の現在」を関空到着直前に読了する。学生の能力として、最近重要視されているコミュニケーション能力は、氏の言う知のアウトプットに相当するであろう。文系人間と理系人間の乖離を嘆いている。企業に役立つ促成技術の習得に努める理系と現在のよ様な高度なテクノロジー理解なくしては勤まらない文系人間の技術音痴に関しては、受験体制の問題と現在の高校における文系と理系の分け方による教育体制の歪が多くなっている証左であると言う。教養、知というものの深さを考えさせられる本であった。容易いことではない！！ 午後 3 時半、ようやく関空に到着。やれやれ疲れた。後、家まで 6 時間くらいかかるか！！ (YI)